



Microsoft Build 2026後の知財専門家：役割のパラダイムシフト

知財業務における4つの役割転換

調査：
調べる人から
「調査システムを
設計・検証する人」へ

書類作成：
作成者から
「権利形成の
アーキテクト」へ

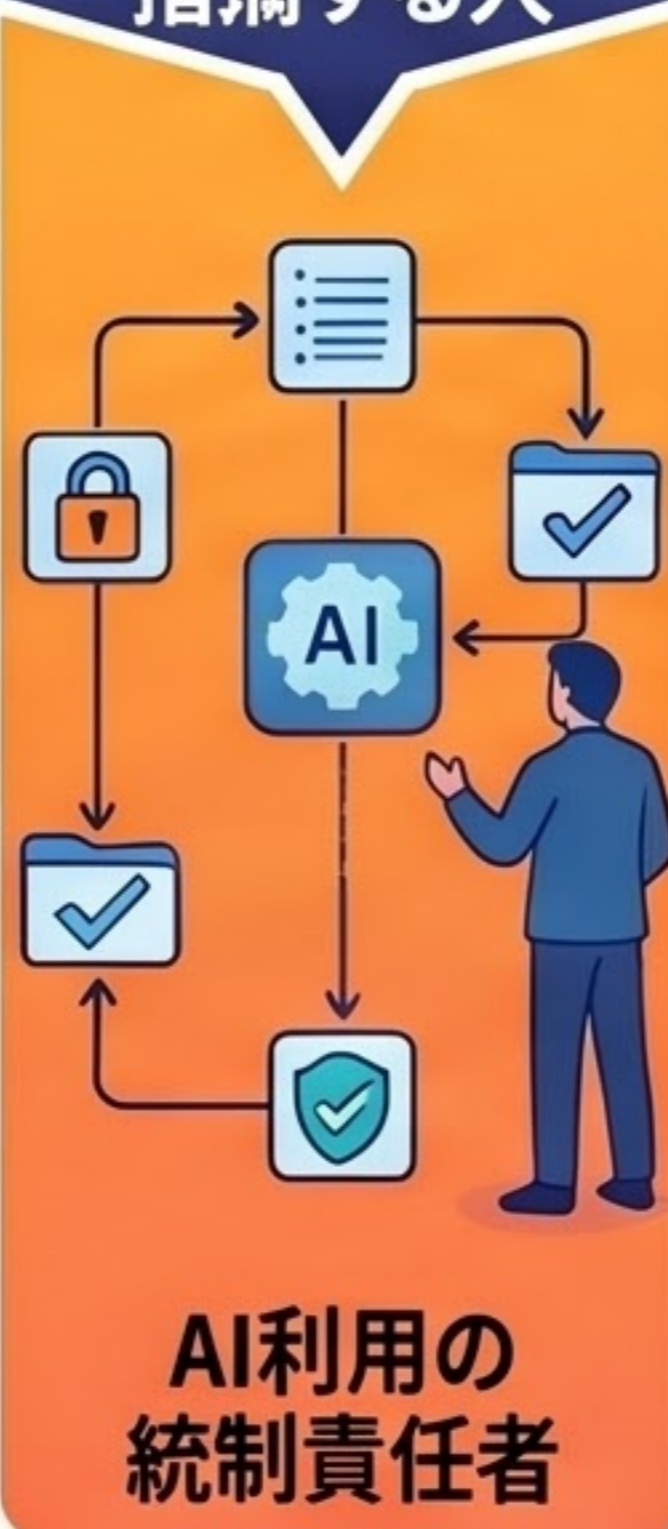
管理：
案件処理者から
「ポートフォリオの
意思決定者」へ

ガバナンス：
リスクを指摘する
人から「AI利用の
統制責任者」へ

From
作業の遂行



To
戦略的設計・統制



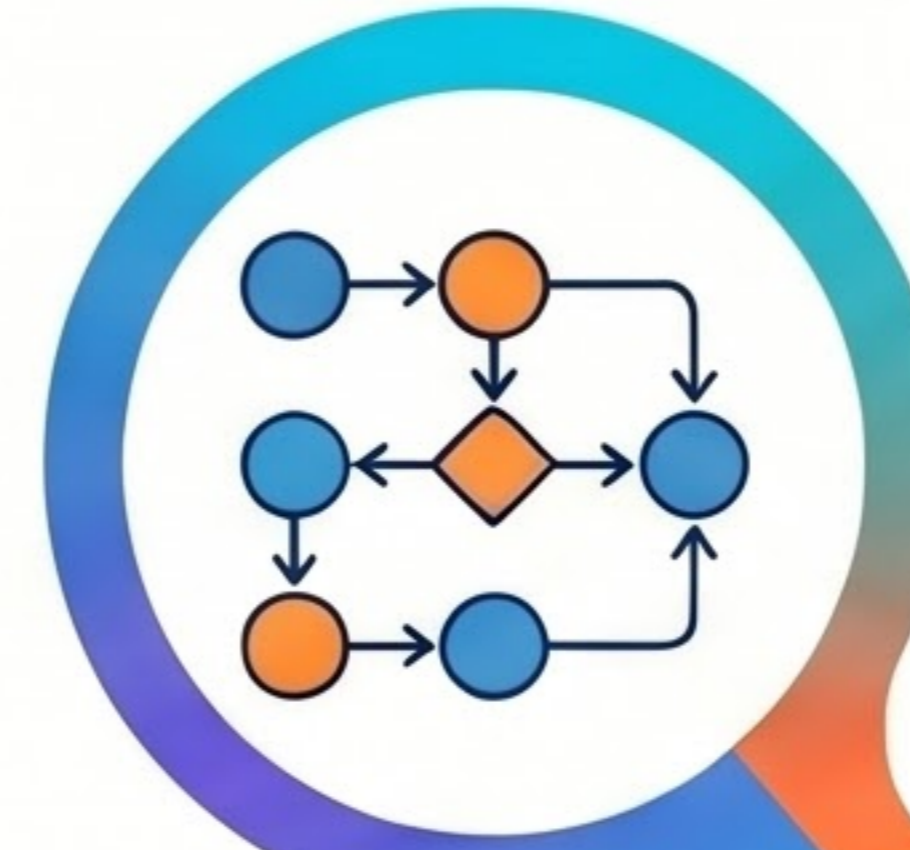
AIが複数ソースを掘削検索する時代、専門家は関係者の作成ではなく、調査範囲の定義やAIの産出し許文書の盲点等)を見挂く監査能力が重要になります。

AIによるドラフト作成を誘導とし、粗劣の事権性を守る権利観設計や、契約書のリスク特断といった戦略的判断に特化します。

定業業務をAIエージェントに任せ、人間は維持・協業の判断や重点投資範囲の特定など、経営に重載する知財戦略の最適化に専念を割きます。

未公開発明などの機密情報を含む知財分群において、エージェントの行動規範(外部送達の解読や承認フロー)を具体的に設計・適用する責任を担います。

新たに求められる専門能力



AIリテラシーと検証能力

LLMやRAGの仕組みを理解し、AIが出した回答の模倣、欠落、検索範囲の妥当性を徹しくチェックする力が必要です。



データガバナンスとプロセス設計

知財データの分取体系を作り、AIと人間の役割分組(どの土壌で人間が承認するか)を業務フローとして構築する能力です。

事業翻訳力

知財のリスクや機会を、製品ロードマップや経営判断に繋がる言葉で説明し、意思決定を促す役割が強化されます。



役割変化の時間軸



AIが主に担うこと



長期

常時監視、
ポートフォリオ
分析、
業務自搾化

知財専門家の
中心役割

知財戦略、
AIガバナンス、
監査判断支援

調査・契約
レビューの
ワークフロー化



中期

調査設計、
品質優証、
知財ナレッジ
基盤構築

調査補助、
要約、
ドラフト初稿、
期限管理

短期



AI出力の
レビュー、
利用ルール
の整備